



Manuia

サモ「輪」がサモ「和」へ

設立 15 年を迎えた 2009 年度は、当 OB 会にとって大きな転換期になった年だと言えます。前回の第 9 号会報の巻頭で「今後もサモア関係者を含め多くの「輪」を作り、それを線でつなぎ、そして面に広げ、大きな心意気の「和」となっていけば・・・」と書きました。本年度、サモア関係者の「輪」、在日サモア人コミュニティーの「輪」、サモア大使館の「輪」など様々な「輪」が生まれました。当 OB 会ではこの個々の「輪」を線でつなげ、面に広げ、大きな心意気の「和」になるための中心的な役割を果たせたのではないかと思います。そしてその「和」が、サモアを支援する強力な「力」になったと思います。



今後この「和」を大事にして様々な活動を行っていただければと思いますのでどうぞご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

また今回のサモア津波被害で犠牲になった方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに早期の復興を心より願ってやみません。

第三回協力隊まつり

2009 年の協力隊まつりが 4 月 25 日(土)及び、26 日(日)の両日 JICA 地球ひろばにて行われました。

今回で三回目ともなれば、ほとんど恒例化しつつあって、既に有志で実行委員会なるものも出来、運営側の整備も随分とまとまったという印象です。さて、当日はまたしても炸裂しましたよ。サモアンご夫人がたのパワー

が、助っ人で参加して下さったファティノ=川上夫人、ジョセフィー=多田夫人による呼び込みで、パンケケの売り上げは一昨年の 1.5 倍に。二日目の昼には完売してしまう始末。もっと具材の量をたくさん要請していればよかったなあと悔やんでも、そこは出たところ勝負の協力隊まつり。客足は天気にも大きく左右されるため、見込み違いで逆に



いつもどこでも陽気なサモア人

余らせる結果にもなりかねません。それにしてもサモアンご夫人がたの大声が会場いっぱい響き渡り、「あれはどこのブースなんだ!」「なぜサモア人がここにいるんだ!」など、方々から質問の嵐。飲食ブース連の中でも一番目立つ存在となっていました。毎年秋の「グローバル・フェスタ」に並んで春に開催されるこの「協力隊まつり」。今後は定着する可能性が高くなる。政府の事業仕分けにより JICA 地球ひろばさえ一旦は閉鎖の話が持ち上がったようですが、こういった催し物によるアピールでその存在価値を訴えていきたいという JOCA のねらいがあるようです。この地はかつて JOCV の広尾訓練所であり、表玄関には協力隊活動で命を落とした隊員の慰霊碑があります。我々にとってはいわば「聖地」です。サモア OB 会としても JOCV の栄光を失わないためにも、できるだけ参加、協力を惜しまないつもりでいます。【H6-2 音楽 澤井慶太】



大雨の中で皆さんお疲れ様でした。

大雨の中で皆さんお疲れ様でした。大雨の中で皆さんお疲れ様でした。大雨の中で皆さんお疲れ様でした。

サモアコミュニティー BBQ パーティー

まず最初に情報が私のところに飛び込んできたのは突然のサモア OB 会からのメールでした。その内容をよ

く読むと...

場所: オーストラリア大使館

備考: 室内プールがあり使用可能なため泳がれる方は水着をご持参下さいなど、とても興味をそそる言葉が踊っていました。早速、参加の連絡をしました。隊次の近い野口さんも参加するとのことなので少し安心できました。



サモア OB 会参加関係者

当日、慣れない三田という場所でドキドキでしたが、オーストラリア大使館の前では、見慣れた顔が並んでいてとたんに楽しみになりました。幾重ものセキュリティの扉を抜けると中庭のようなところにテントが用意されており、その横にはプールのようなものが見えました。このオーストラリア大使館に入れたということも、自慢になっています。バイリマを楽しみにしていたのですが、オーストラリアへの任国外旅行で一番おいしいと思ったビアのクラウンラガーがありました。もうこれだけで十分満足できましたが、さらに懐かしいサモア



フードが用意されており、中央が駐日サモア大使ご夫妻久しぶりに「マオナ、マオナ」と言いながら、サモアにいた頃、現地のサモア人にたくさん食べさせられたのを思い出しました。途中で、「ノリオ」と呼び止められ、僕を知ってるサモア人がいるのかと振り返ったら、NUS の留学生がホームステイをしていた家族でした。まさかこんなところで会うとは。サモアではどこにでも知り合いはいましたが...サモアンダンスもあり、日本人も参加しましたが、サモア人は飛び入りで踊ってい

ました。そんなところもサモアだなあと思いました。すっかり日本の生活に慣れ、ゆったりとした時間を楽しむことを忘れていたことに気づきました。機会があったら



参加者が入り乱れての Siva

サモアに行きたいなあ、発展してほしいけど、ゆっくり変わって欲しいなあなどと勝手な希望をいただけてしまいました。三田という東京のど真ん中で、プール、ダンス、サモアンフード、と至れり尽くせりでとても楽しかったです。このような会を継続的に開催してゆけたらと思えました。OB 会をはじめ、関係者の方々、ありがとうございました。【H16-2 獣医師 奥澤教雄】

サモア津波被害犠牲追悼式

2009 年 9 月 29 日 (現地時間) にサモアの南沖合約 200km で起きた地震と津波のために、多くの方が被害を受けました。この災害の犠牲となられたサモア、アメリカンサモア、トンガの方々の追悼式が 10 月 30 日 (金) に行われました。お茶の水クリスチャンセンターのエレベーターを上がると、教会の入口でレイアタウン・トゥイトロヴァア・DR・キリフォティ・エテウアティ駐日サモア大使ご夫妻が迎えてくださいました。教会の中央より右側の列にはニュージーランド人、オーストラリア人などの関係者、支援者が座っていました。私は、左側の日本人関係者の席に案内され、その前の席には日本在住のサモア人の方々が座っていました。



弔辞を述べるサモア大使

追悼式は、大柄なアメリカンサモア出身 Talo Sataraka 牧師の司会で始まり、筑波大学に留学中の Vaise 君がピアノ演奏をしました。きれいな音で心に深く浸みました。お祈りの後、全員が黙祷。前の方の席でサモア人の女性が肩を震わせていましたが、ご家族や友人を亡くされたのでしょうか。隣のサモア人の方が彼女の背中をなせて

いました。南洋の愛情表現は接触だということですが、人と人との関わりの深さと優しさが教会を包んでいるように感じられました。その後、サモア大使のスピーチで各地の被害状況報告があり、JICA の援助だけでなくオーストラリアやニュージーランドの援助が被災後すぐにあったとのこと。大使は感謝し、復興を祈りました。お祈りとサモア語での詩の朗読や賛美歌が教会に響き、災害の犠牲となられた方々のご冥福を祈りました。再び、Talo 牧師が登場し、法話で復興を祈り追悼式は終わりました。追悼式の後に、被災地の状況や支援の様子を写した数分のビデオ放映があり、ウポル島の南海岸の被害を見ました。思い出の海岸が戻り、人々が元気になることを祈ってやみません。



【H16 シニア 日本語教師 一林久美子 (米沢)】

グローバルフェスタ 2009

毎年、秋の恒例イベントとなった「グローバルフェスタ 2009 JAPAN」が、10 月 3 日 (土) 及び、4 日 (日) の両日東京日比谷公園で開催されました。これまでこのフェスティバルの中心はパンケケ販売でしたが、今回は直前の 9 月 30 日にサモアを襲った津波をうけ、OB 会としてこの津波への募金活動を行うこととなり、主催者側の了



サモア人と一緒にの募金活動中

解取り付け、募金箱や募金案内の文書作成など、短時間で準備作業を整えました。当日は無情の雨の降る中、パンケケ販売と募金活動をスタートしました。パンケケの



OG 作成の募金箱

販売に比べ、募金活動は当初緊張していましたが、実際にお願いと多くの方が応じてくれました。日本人の地震・津波被害に対する思いやりを改めて実感することができました。読売新聞の取材 (10/4 (日) の都民版に掲載されました) もある中、午後になると日本在住のサモアの方々が続々と会場を訪れました。サモア人・日本人混成チーム 30 名以上集まりました。アレイパタの被害状況の写真と共に歌やシバを交えての募金活動とパンケケ販売は来場者の大きな関心を集め、大変な盛り上がりとなりました。その日の夜、近くの居酒屋での打ち上げ会は、30 名を超える参加となり、こちらもこれまでにない盛会となりました。その後、日本人は適度に解散しましたが、サモアの方々の宴はどうやら翌朝まで続いたようです。そのせいか、2 日目の日曜日は日本人中心となりましたが、ご協力いただいた OB・OG 諸氏やかねてから交流のある高校のボランティア、サモアの皆さんに改めてお礼を申し上げます (なお、募金及び掲載記事の詳細については、以下リンクをご覧ください) 【S61-1 シニア 辻尚志】



<http://www.fafetai.net/top-contents/samoa-tsunami/donation-victim/donation-victim.html> (募金)

<http://www.fafetai.net/top-contents/samoa-tsunami/samoa-donation.pdf> (掲載記事)

平野児童館

2009 年 11 月 21 日 (土)、平野児童館の子供達とゲームを通して、話をしたり、お茶をしながら異文化を体験しました。ゲストには中国人・フランス人・子供達とゲームを楽しむ OB



オーストラリア人・フィリピン人、黒人白人、老若男女問わず様々な方が参加しました。英語も日本語も出来ない中で、ジェスチャーや顔の表情だけでコミュニケーションをとっている方もいました。前はゲーム、うどん



作り等をやりましたが、今回は体を使ったゲームと頭を使ったゲームをやりました。始めに自己紹介を兼ねて、体を動かして誰でも簡単に出来る『じゃんけんで

カードをゲット』、『震源地ゲーム』の2種類のゲームをやりました。じゃんけんでカードをゲットは始めに一人5枚のカードを持って、周りにいる誰かを捕まえて、自己紹介をしたら、じゃんけんをして勝ったらカードを相手の人からもらうというゲームで、時間内で一番カードを多く持っている人が勝ちというルールです。震源地ゲームのルールについては省略します。子供達、大人達もみんなで進んで楽しくゲームをしました。震源地ゲームでは鬼をやる事が出来ずに泣いてしまう子もいました。特に外国から来ている人は震源地ゲームを初めてやるという人が多くとても興味を示していたようです。その後はグループに分かれて座ってする頭を使ったゲームをやりました。始めにやったのはクイズゲームです。内容は

- ・ジェスチャーのみで全員の兄弟の数を知る
- ・以下について質問し合う
- 血液型は何型?
- 好きな食べ物は何か?
- 好きな色は何か?
- ・もし ~ が起きたらあなたは何をもっていくかを話し合う (~ は各々の想像する家の外に逃げなくてはならない出来事)

以上がやった内容です。言葉での交流が難しい中、それぞれのやり方でコミュニケーションをとり、大変充実した時間になりました。このような機会が色々な地域で行われることで、在日外国人にとっては住み良い社会になり、子供達にとってはは

広い視野を持つことで伸び伸びと成長していくことと思います。そして、これからの社会をより良いものにしていけるとと思います。そのためにも一度このような場足を運び、地域で広めていければと思います(なお、2009年6月20日(土)及び2010年2月20日(土)にも同様なイベントがあり当 OB 会からも参加しています。詳細は以下リンクご覧下さい。)

【H16-3 理数科教師 野口裕夫】

<http://www.fafetai.net/activities/hiranojidoukan/hiranojidoukan.html>

サモア津波災害チャリティー・ファイア

昨年11月28日(土)日本在住のサモア人有志の呼びかけで、サモア津波災害復旧支援のためのチャリティー・イベント(ファイア)が東京・三田のオース



トラリア大使館内のホールで開催されました。当日は JOCV の OB・OG、元専門家などサモアにゆ

かりのある日本人、本邦在住のサモア人、その友人など300名を超える人々が集まり、外の寒さとは対照的な熱い盛り上がりを見せました。サモアン・シバの他、ニュージーランド・マオリ、クック諸島、フィジーなどの歌と踊りが繰り広げられ、続くチャリティー・オークションも大盛況。またマヌ・サモアの元キャプテンで昨年代表チームに復帰したセモ・シティティ選手(NTT ドコモ)のリードで、大迫力の八力が披露されました。今回のファイアでは、一晩で200万円以上の寄付が集められ、被災者の生活支援のために贈られました。また、このイベントを通じて、日本のサモア・コミュニティの結束も強まったのではないのでしょうか。昨年の津波は大洋州では未曾有の大災害であり、多くの犠牲者が出た本当に悲しい出来事とし

た。しかし、サモア人の美点でもある、親族の強い絆と地域の相互扶助により、過去に世界で発生したどの大規模災害よりも速いペースで、被災地の生活再建が進んでいます。これからサモアに必要なのは、



フォ！盛り上がった Siva

被害を受けた観光地、観光業の復活です。日本人は、被災した場所に観光に行くのは不謹慎と考えがちです。しかしインド洋津波の後のブーケットなどでもそうでしたが、現地では一日も早く、元通りに海外からの観光客に戻って来て欲しい、美しく回復した島の姿を見て欲しいと願って努力しています。みなさんも、懐かしい友人に会いに、またご自分の元気な姿と立派にサモアン化したウエスト周りを見せるために、久しぶりに里帰りをしてみてはいかがでしょうか。

【元 JICA 駐サモア事務所職員 三村悟】

サモア津波災害義援金贈呈式

2009年9月29日(現地時間) サモアを襲った津波。当初マスコミの報道からはパゴパゴが大被害を受けているものと思っていましたが、その後、我がサモ



駐サモア大使と握手する OB 会会長

アで起こっている悲慘が報道され始め、いても立ってもいられず、急遽募金活動を開始しました。丁度、グローバルフェスタがあったため日比谷公園での OB 会、そしてサモアコミュニティ挙げての募金活動。そしてその後は、OB 会のウェブサイトや口コミで行いました。開始後約1ヶ月で締め切ったにもかかわらず、その後も多くの方から募金があり最終的に当 OB 会で95万円弱もの金額が集まりました。またこの募金活動は、当サモ

ア OB 会のほか、サモアに関係するパシフィックインターナショナル(株)及び協和海運(株)とも共同で行っており、3 団体合わせ 460 万円強にもなりました。このため義援金については、去る 12 月 1 日(火) 3 団体の代表者が在京サモア大使館に集まり贈呈式を執り行いました。

当日は当方代表として協和海運(株)の高松 裕満社長よりレイアタウア・トゥイトロヴァア・DR・キリフォティ・エテウアティ駐日大使に募金をして下さった方々の名簿が手渡されました。レイアタウア大使からは今回の津波被害に関しては、日本を含め各国からの支援があったことと今回の我々の義援金に対する感謝の意が表されました。そしてサモアでは多くの方が家を失っており、現在家の建設が進められているのでそのための資金として使用したいとの話がありました。

本義援金には多くの心厚き方々の優しい志が含まれているものです。サモアの復興のために有効に使われることを希望するとともにこの紙面をお借りしてご協力いただきました多くの方々にお礼申し上げます。世知辛い世の中と言いつつ心厚き方々に接することができ幸せでした。

なお、本贈呈式の模様は、「読売新聞(12月2日朝刊都民版)」と「JICA ボランティアニュース(第10号)」に掲載されました。【S63-3 シムレヅゴ 大塚一雄】

サモア震災リポート

～太陽の国の力づよさ～

2009 年 9 月 29 日朝(現地時間) サモアを大地震が



現地の JOCV と SV の方々

襲いました。特に、ウポル島南側のアレイパタと呼ばれる地域は津波に襲われ、たくさんの方が亡くなりました。協力隊でもジュニア・シニアを問わ

ず、多くのメンバーが地元の赤十字と協力しながら支援にあたり、特に、車を持っているシニアボランティアの方々は、何か出来ることはないか、との思いで、すぐに現地を視察に行かれました。そのとき同行したジュニアボランティアのメンバーが、現地の様子を悲痛な顔で「ほんとうにひどい」と言っていたことが今でも忘れられません。視察メンバーに教育関係の方々が多かったこともあり、少しでも早く子供たちが学校に行けるよう、私たちは学校の清掃をすることにしました。私たちが現地で掃除をしていると、地域の子供たちも集まってきて、一緒に掃除をしてくれました。自分の家も大変だったに違いないのに！しかし、みんな本当に元気で、満面の笑顔にはこちらが励まされる思いでした。そして、サモア人が地震直後に壊れた家を自力で建て直しているのを目の当たりにしたときには、本当にサモア人ってすごいと思いました。さすがに津波に襲われ、多くの家族を失った海岸域には住めないという人もたくさんいらっしゃいますが、その方々も、すぐ近くの山の上にサモアンファレを建て、そこに新しい村を作って暮らしています。皆さんから送っていただいた支援物資は、被災者の方々が少しでもいいクリスマスを過ごせるようにと願って行った、ペットボトルを用いた手作りクリスマスツリーのライトアップセレモニーで、村の子供たちに贈らせていただきました。大きな被害のあった後、まだ心の傷を負っている方もいらっしゃいます。しかし、子供たちの笑顔を見ていると、本当にサモアの力強さと明るさを感じます。復興はまだ終わっていませんが、これから私たちにできる協力をしていきたいと思えます。

【H21-1(現地 JOCV) 環境教育 尾上 保子】

壮行会

今期はシニア・ボランティアおよび JOCV の壮行会として、計 3 回の開催がありました。

2009 年 5 月 23 日(土) 短期シニア・ボランティアとして



清水 SV 壮行会

派遣されました清水幹雄さんの壮行会を開催。隊員としては平成 6 年度 3 次隊・数学教師として派遣経験がある清水さん、今回も同じ配属先：聖ポール・カレッジへ短期シニア・ボランティアとしての再派遣となりました(平成 22 年 3 月 9 日、清水 SV は無事任期満了で帰国しました。)

2009 年 6 月 13 日(土) 平成 21 年度 1 次隊の壮行会として尾上保子新隊員(職種：環境教育)に出席いただきました。「ペットボトルやプラスチックのリサイクルや分別のお手伝いができたらいいな、と思っています。H21 年度 2 次隊壮行会先輩方もいい人で幸せです。サモアの人のためにがんばりまーす」という OB 会冥利に尽きるコメントをご本人からはいただいております。



2009 年 9 月 26 日(土) 平成 21 年度 2 次隊の壮行会が行われ、主賓のお二人：



H21 年度 1 次隊壮行会

木村 竜輔新隊員(職種：理数科教師) 小池瑞穂新隊員(職種：小学校教諭)

に出席いただき、それぞれ木村新隊員には「”郷に入っては郷に従え”第二の故郷となるサモアを好きになって帰ってこられるよう、2 年間頑張ります！」、小池新隊員には「サモアとサモアのことを沢山知って大好きになって、2 年後『日本に帰りたくない!!』と言えるような時間を過ごしたいです」という力強い意気込みをいただきました。

皆さん、新隊員壮行会は OB 会として最も重要視している行事の一つです。皆さんにとっても懐かしのサモアを振り返る絶好の機会であることは間違いありませんので、今後もお自由にサモア OB 会主催の壮行会にご出席いただければ幸いです。【H6-2 音楽 澤井慶太】

皆さん、新隊員壮行会は OB 会として最も重要視している行事の一つです。皆さんにとっても懐かしのサモアを振り返る絶好の機会であることは間違いありませんので、今後もお自由にサモア OB 会主催の壮行会にご出席いただければ幸いです。【H6-2 音楽 澤井慶太】

2010 年 3 月 12 日(金) 平成 21 年度 4 次隊の壮行会を開催しました。

特別寄稿

The establishment of the Embassy of the Independent

State of Samoa to Japan, in Tokyo, 2009.

レイアタウア・トゥイトロヴァア・DR・キリフォティ・
エテウアティ駐日大使

The decision by the Samoa government to establish Samoa's Embassy in Tokyo was not a difficult one to make given the excellent relations which have developed between Samoa and Japan since diplomatic relations were established between the two countries in 1973. During the past thirty seven years, Japan has



レイアタウア駐日大使

become one of Samoa's major development partners, and the two countries have consistently supported each other in their bilateral, regional and international dealings, most notably in the latter category, in the United Nations and its many agencies. Japan has provided Samoa with substantial assistance which has impacted directly on virtually all spheres of Samoan existence; it has been aid well-targeted and and effectively applied, and it has clearly improved the lives of the people of Samoa particularly in the rural areas. As a result, Samoans throughout the country deeply value and appreciate Japan's assistance. A few examples: in the field of health, Japan funded the design and the construction of all the hospitals on the big island of Savaii. It did the same for the most populous island of Upolu except for the main hospital in the capital of Apia. In the other major social area of education, Japan funded the design and the

construction of all the facilities (buildings, grounds, roads etc) on the main campus of the National University of Samoa, and it has contributed the majority part of the funding for the construction of most of the school buildings throughout Samoa. It has also provided a large number of scholarship grants for Samoan students to study in Japanese tertiary institutions as well as provided training for Samoans in both Japan and Samoa. And Japan has sent many highly skilled Japanese volunteers and specialists to provide support to government Ministries and agencies, as well as the private sector.

On maritime matters, Japan is by far Samoa's principal development partner. All the wharves at the Matautu port which handles all of Samoa's international and inter-island shipping in Apia were designed and built under Japanese grant aid, and the main inter-island vessels which provide public transportation between the islands of Upolu and Savaii, and between Samoa and American Samoa, have all been provided by Japan. The latest addition to this fleet, the newly completed Lady Samoa III, was handed to the Samoan government by the Japanese shipbuilding company at Chiba Prefecture in the last week of January 2010, and it is expected to reach Samoa on her maiden voyage this weekend (19-20 February 2010). The Lady Samoa III is a magnificent vessel which has the capacity to carry 740 passengers (+12 crew members) and 40 vehicles. It will be used mainly on Samoa's busiest sea route between Upolu and Savaii islands, replacing the Lady Samoa II, another Japanese funded vessel, which has plied this same route for over 20 years. As a result of this generous assistance by Japan, the people of Samoa from all walks of life, and of all ages, will enjoy an even more comfortable and safe sea voyage between the two main islands of Samoa for many years to come.

I would like to take this opportunity to invite the members of the JICA SAMOA OB Association to visit the chancery of Samoa's Embassy in Tokyo and share stories and a drink of tea with us when you have time.

Soifua

原文から抜粋しております。全文は以下でご覧になれます。

<http://www.fafetai.net/>

サモア大使館オープニング

2010年1月29日(金)、東京八丁堀の駐日サモア大使館(八丁堀駅から徒歩10分程度。)において日本政府関係者やサモア関係者約150名を招き、盛大に同大使館オープニングセレモニーが開催されました。当OB会からも会長及び副会長が招待され参加しました。詳細については、以下のリンクご参照下さい。

<http://www.fafetai.net/activities/embassy-opening/embassy-opening.html>



正直やっとここまで来たかというのが率直な感想です。まず当OB会にもたらされたサモア大使館の開設の第一報は、2008年12月サモアの首相

冊を踊る在日サモアコミュニティのメンバーたち

(Tuilapepa Lupesoliai Sailele Malielegaoi 氏)より依頼を受けた在日通商観光代表である大石敏雄氏によるものでした。同氏からは来年春過ぎに東京にサモア大使館が設置されることになったので、同大使館で働ける職員の募集に協力をして欲しいとの話でした。何度かPIさんとの間で職員採用の件で意見交換を行いました。また事務所候

補地として「 が関」や「 ノ門」辺りとの情報が入りました。さすがは大使館と関心をしましたが、最終的に現在の場所に落ち着いたようですが、サモアを知っている我々にしてみれば正直サモアらしいかもしれません。また昨年夏前にはレイアタウア駐日大使が大使館開設準備のため来日された。その際 PI さんのご配慮で八丁堀のとある秘密クラブ(笑)で同大使とお会いする機会を得ました。その



ときの印象は非常に気さくな方という印象を持ちました。その後、BBQ やチャリティーイベントなどでも一緒にさせていただく機会がありました。そして

今回のオープニングに至るわけですが、実は当初昨年 12 月に開催予定でしたが今回のレディーサモアの引渡し式でサモアより大臣が訪日することを受けて今回の日程になったとのことです。いずれにしても、今回、駐日サモア大使館が開設されたことにより両国の絆がより一層深まること、そして日本人とサモア人との架け橋になることを期待します。最後になりますが今回のレイアタウア駐日大使の特別寄稿の中で大使館に足を運んで下さいとのメッセージがありました。是非お時間がある方は大使館へ足をお運び下さい。因みに大使以外ではスレンダー美人の参事官の Faamao さん、チャーミングな大使秘書の松本さん、そしてシルバーグレーのドライバーの方の 4 名体制です。

【S63-3 システムングア 大塚一雄】

『幸福な社会って何でしょうか』

ブータンの国民総幸福量 (GNH: Gross National Happiness) のことはみなさんもお存知かと思いますが。最近はどこかの国の政府も国民の幸福度の指標を作るなんて言っていますが、まずは開発途上国と呼ばれる国々に学ぶ必要があるように思います。そして幸福量で比べるならば、サモアが世界トップクラスであることは間違いのないのでは

ないでしょうか。

ご存知のとおり、サモアは昨年 9 月の津波により、多くの犠牲者を出しました。津波発生直後からサモア政府 (気象局勤務の SV も一緒に!) は、被災地の状況把握及び内陸部へ避難した住民たちへの緊急支援に奔走しました。そんな非常事態にアピア市内のスーパーマーケット (華僑系) は食料品等を提供し、サモア政府がそれらを緊急救援物資として分配したそうです。一方で、リゾートホテルがいくつか被災しましたが、略奪や物取りが起こったという話も聞きませんでした。(まあ、皆が顔見知りの地域ですから、、、)

「災害は社会の深部をえぐり出す」と言われます。これは、災害被害が社会的弱者に集中することや、日ごろ社会が抱える差別や貧困等の問題が、災害時には一挙に露呈するという意味を含んでいます。大災害時によく発生する商店からの略奪や損壊家屋からの物取りも、露呈した社会の深部の一部だと思うのです。ですから、災害が起こったときに被災者が安心して政府や民間企業等からの支援を待つられる社会かどうか、ということも幸福量の指標になるのではないのでしょうか。その点で、政府、企業、地域住民や遠くの親戚、各国機関、そして JICA/JOCV/SV など日本のサモア関係者まで、多くの支援が寄せられたサモアは、大きな安心感・幸福感に包まれた社会ではないでしょうか。(もちろん、減災努力は今後も必要ですが)。

そんなサモアの幸福量をはかってみるなら、「あなたは幸せですか」と国政調査で問うまでもなく、私の隊員時代にサモア人から幾度となく聞いた次のセリフから十分に結果は予想できます。「どうだ、サモアはいいところだろう。」

【H9-3 測量 金谷祐昭】

2009 年度収支報告

本年度も皆様から会費のご支援をいただきありがとうございました。本年度はご承知のとおり昨年 9 月にサモアで発生した地震による津波被害の支援のためグローバルフェスタの売上のほぼ全額を寄付させていただきました。このためサモア OB 会の収入は例年に比べ少

ないものとなっておりますが、有効に資金は使えたかと思えます。また今後も各種イベントへの参加や会報の作成などの活動を通してサモアの広報および親善活動に役立てて参りますので、どうぞご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。【H9-1 家政 坪井(数内)美香】

【2009年度収支】

| 収入 | | 支出 | |
|--------------------|-----------|--------------------|-----------|
| 会員会費 | 46,000 | OB 関係総務の通費 | 40,975 |
| 協隊員補助金 | 175,233 | JOCA年会費 | 30,000 |
| イベント(グローバルフェスタ等)収入 | 94,400 | イベント(グローバルフェスタ等)経費 | 59,560 |
| その他(寄附) | 2,900 | 印刷費 | 75,600 |
| | | 雑費 | 120,763 |
| 小計 | 318,533 | 小計 | 326,898 |
| 前年度繰入金 | 922,084 | 次年度繰出 | 913,719 |
| 合計 | 1,240,617 | 合計 | 1,240,617 |

サモア OB 会会報は、年一回発行しています。

会報・当 OB に関するご意見・ご感想などをお待ちしております。

OB 会役員宛メール samoa@fafetai.net

OB 会メーリングリスト vailima-fafetai.net@fafetai.net

(事前登録が必要です。)

OB 会ウェブサイト: <http://www.fafetai.net/>

ボランティア募集

当 OB 会のスタイルは堅苦しくない「FaaSamoa (サモア風)」で、集合時間も±30分は誤差の範囲です。知らない顔同士でも年齢が違って、みんな基本的にサモア風なので、すぐになじみます。普段の忙しい日常や仕事を忘れてのんびりできるひとときです。ぜひ顔を出してみてください。多くの方のご参加・ご協力をお待ちしております。

サモア関係者各位

平成 22 年 4 月吉日
青年海外協力隊サモア OB 会
会長 大塚 一雄

サモア OB 会第 10 号会報「MANUIA」の発行について

拝啓

陽春の候、皆様方におかれましてはますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて今般、当 OB 会¹では関係者皆様方のご協力により第 10 号会報「MANUIA」を発行することができました。すでにサモア ML(メーリングリスト)²にご登録頂いている方にはメールにてお送りしておりますが、今回同 ML にご登録頂いていない方々に当会の活動内容を知って頂くため会報をお送りしております。

今回の会報には、平成 21 年度の OB 会活動に加え、津波被害に関する現地サモアからの報告や先般開設した駐日サモア大使からのメッセージを記載しており、今まで以上に充実した内容となっております。またご覧になって頂けるとお気づきかもしれませんが、OB 会活動を通じてサモアの「輪」が確実に広がっています。嬉しい限りです。これもひとえに皆様方のご支援・ご協力の賜物だと存じます。

当 OB 会のスタイルは堅苦しくない「FaaSamoa (サモア風)」で、集合時間も±30 分は誤差の範囲です。知らない顔同士でも年齢が違って、みんな基本的にサモア風なので、すぐになじみます。普段の忙しい日常や仕事を忘れてのんびりできるひとときです。ぜひ顔を出してみてください。多くの方のご参加・ご協力をお待ちしております。

またこの機会を捉えてひとつ OB 会からお願いがございます。現在、OB 会の活動は全てボランティアで行っております。しかしながら、会を運営するに当たりましては、少なからず経費が必要となります。このため当 OB 会では従来から会費制を採用しております。

つきましては、当 OB 会の趣旨及び活動にご賛同頂ける場合は以下の OB 会口座³に年会費 (2,000 円) をお振込み頂ければ幸いに存じます。ご不明な点などがございましたら samoa@fafetai.net へご連絡下さい。

敬具

¹ サモア OB 会とは (<http://www.fafetai.net/>)

サモア OB 会は、JOCV の OB・OG を中心に、その経験を生かしてサモアと日本の親善に寄与し、会員相互の親睦を図る目的で、1994 年に設立された任意団体です。当初サモア関係者は 200 名程度でありましたが、現在では JOCV、SV、専門家、JICA 元所長・駐在員、JOCV 調整員などを含め 450 人を超える大所帯になりました。

² サモアメーリングリスト

サモア ML へ登録ご希望の方は次のアドレス(<http://fafetai.net/mailman/listinfo/vailima-fafetai.net>) から登録が出来ます。地球環境への配慮、経費削減及び迅速な情報伝達のため是非ご登録下さい。手続きがご不明な場合は samoa@fafetai.net へお問い合わせ下さい。)。

³ 振込先口座

金融機関: ゆうちょ銀行 支店名: 〇一九店 (ゼロイチキユウ店) 口座種類: 当座

口座番号: 0544721 口座名義: セイネンカイガイキヨウリヨクタイサモアオービーカイ